

派遣先所属 宮城県仙台地方振興事務所 農業農村整備部農地整備第2班第2チーム  
氏 名 横山 大起 (よこやま ひろき)  
派遣期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の仙台地方振興事務所 農業農村整備部では主に、津波で被災した農地の復旧・復興に関する業務を行っています。私の所属する農地整備第2班第2チームでは、宮城県の南部にある亶理郡亶理町を担当地区として受け持っています。

亶理町では、震災時の津波により海辺の家々や農地などは壊滅的な被害を受けました。農地にあった耕作土は流され、その上にガレキ混じりの土が堆積しました。また、農地に海水がかかったため、塩分が農地に残り、作物が育ちにくい土になってしまいました。

当事務所では、これらの被害を受けた農地を復旧するとともに、農地の大区画化・用排水路網の整備・農道の整備を一体的に行っています。なお、宮城県では田んぼ一枚当たりの標準面積が1haという、非常に大きい区画での整備を行っています。



H27 年度完成の農地と現在工事中の農地

震災から5年が過ぎ、これまで復旧復興を行ってきた農地で営農が再開され始めています。復旧が終わった水田ではイネやダイズ、畑ではレタスなどの葉物野菜が栽培されています。地域の方々からは、いつから営農ができるのかということを知りたいという声が多く、地域の営農に対する意欲は高いように感じます。まだ荒地のままの地区もありますが、残りの地区も今年度実施中の工事によって整備が完了する予定です。復興が進んできたということ、肌で感じられるようになってきました。



稲穂が実る H27 年度完成の水田



葉物野菜を栽培する H27 年度完成の畑

私の所属する農地整備第2班第2チームは、宮城県職員6名（内1名は任期付職員）、高知県派遣職員1名、福井県派遣職員1名と私の計9名で業務を行っています。班員は20代・30代が5名と比較的若い人が多く、仕事でも互いに話しかけやすい職場になっています。また仕事だけでなくプライベートでも一緒に遊びに行くなど、休日にも楽しみながら派遣職員としての生活を送っています。

担当業務は工事の発注・施工監理・地元調整で、ほ場整備（田畑の大区画化、用排水路・農道の整備）工事を1つ、客土（別の場所から田畑に耕作土を搬入する）工事を1つ、暗渠排水（水田の水はけを良くする）工事を1つの、合計3つの工事を担当しています。

昨年度までは、たびたび休日出勤をしないと業務が片付かなかったようですが、今は業務量も落ち着いてきており、計画的に仕事を進められています。先述のとおり、休日には職場の同僚や友人などと被災地を見に行ったり、東北の観光名所に出かけたりすることで、復興へのモチベーションを上げたり、うまくリフレッシュしたりして、仕事効率の向上を図ることができています。

## 2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

私の担当している亘理町のとなりにある山元町では、8ha の大区画畑地を整備しています。整備した畑地は、地域の担い手農家に農地を集約して営農しています。併せて、大規模な集出荷施設を町で整備し、生産だけでなく出荷まで考えた大規模農業の基盤整備を行っています。震災がきっかけとは言え、これからの新しい農業への一歩を踏み出しているように感じます。

また、休日にプライベートで南三陸町の旧防災庁舎を見に行きました。震災当時、町長をはじめとした多くの町職員がこの庁舎で災害対応にあたっていました。津波により甚大な被害を受け、多くの職員が命を落とされました。津波が到達する直前まで住民に避難を訴え続けた職員の行動を、同じ一地方自治体職員として誇りに思うとともに、自然災害の恐ろしさを改めて感じました。

宮城県での復興業務を経験させていただくことで、改めて埼玉県の農業農村の姿を見つめ直す機会を得られたように感じています。これからも、宮城県の復興に貢献できるよう努力し、またこの経験を埼玉県に還元できるよう業務に励んでいきたいと思ひます。



山元町の 8ha の畑地



南三陸町の旧防災庁舎